

■ 米国債利回りの急上昇と米株安はそろそろ一服して円買いは緩む！？

前回更新分の本欄で、ドル/円について「もう一段の下値を試す動きが出たとしても、それは61.8%押しでの114円割れの水準あたりまでということになるだろう」と述べた。

案の定、先週14日のドル/円は一時114円割れの水準を試す動きを見せたが、結局は大きく切り返して114円台前半の水準で取引を終えた。その日の日足ロウソクは長めの下ヒゲを伴う格好となり、ドル/円の底堅さが再確認される展開でもあった。

既知のとおり、先週14日にドル/円が一時大きく値を下げたのは、同日発表された12月の米小売売上高が10カ月ぶりの大きな減少率となったことも一因だが、何より大きかったのは一部メディアに「日本銀行は物価目標2%の達成前に利上げを議論」という英語のみの観測記事が載ったことであった。

これは、どう考えても“ガセネタ”の類である。それでも、一応反応せずにはられないのが相場というものなのだろう。もちろん、そのネタ元は明確な意思を持って一旦ドル/円の下げを勢いづかせようとした。むろん、116円台から売り仕掛けてきた筋であろう。ただ、それでも当座の下値の目安となるチャート・ポイントが、一段の下落に歯止めをかける役割をしっかりと果たしたということは再認識しておきたい。

また、この“ガセネタ”が私たちに絶好のチャンスをもたらしてくれたことも事実である。一時的にもドル/円を114円割れの水準で買い拾う機会を与えてくれたし、底入れ&反発後は1月4日高値から同月14日安値までの下げに対する半値戻しの水準まで値を戻して、利益確定の機会も与えてくれた。お分かりのとおり、かなり明確な「仕掛け」と、その後の「ガセ(煽り)ネタ」というのは賢く利用すれば、得難いチャンスをもたらしてくれる。

ドル/円については、今後も114円前後の水準が下値サポートとして意識される可能性が高い



と見る。114円割れの水準には一目均衡表の日足「雲」上限や89日移動平均線のチャート・ポイントもある。加えて、日足の「遅行線」が日々線を下抜けずに持ち堪えていることにも注目しておきたい (左図参照)。

足元は、米株価が調整含みとなっていることが市場のリスク回避ムードを高め、結果的に円の下値が堅くなるという状況が続いているが、そろそろ米株価の調整も一巡してリバウンド局面を迎える＝リスク回避ムードが後退する可能性は高いと見る。

目下の株価調整は米国債利回りが急上昇していることにあり、それは米景気の先行きが明るく見通していることを示しているのだが、今以上に株価が大きく下落してしまえば、金利上昇の前提となっている景気回復のスピードは大幅な鈍化を余儀なくされる。つまり、米国債利回りの急上昇もそろそろ一服となるに違いなく、米株価が下げ止まれば市場のムードも改善する。結果、再び円安傾向が全体に強まり、あらためてドル/円は115円台半ばから116円台を試す展開になると見る。

なお、ドル/円以外で、目的的にはポンド/円に注目しておきたい。

既知のとおり、市場は英中銀による2月の追加利上げを期待しているうえ、英国では来週からコロナ絡みの規制が解除されるとも聞く。昨日発表された12月の英国の消費者物価指数(CPI)は、前年同月比で5.4%上昇と約30年ぶりの水準に加速した。リスク回避の円買いが一服すれば、再び1158円処が意識されておかしくないと見る。 (01月20日 10:00)